

## 令和4年度第2回 倉敷市地域福祉基金運営委員会

日 時 令和5年1月31日（火）9時30分～10時20分

会 場 倉敷市役所本庁舎7階 701会議室

### 出席者

委員 石井委員、植田委員（会長）、岡本委員（副会長）、木村委員（監事）、小松原委員、田野委員、中野委員、新垣委員、平岡委員、山崎委員（監事）

### 事務局

保健福祉局）藤原局長、森参事

保健福祉推進課）佐藤課長代理、白神主任、中山主任、高橋主事、山砥主事、渡邊主事

欠席者 なし

傍聴者 なし

### 議事内容（要旨）

#### 1 開 会

委員10名の出席により、倉敷市地域福祉基金運営委員会規約第9条第2項の規定に基づき、会議が成立していることを確認し、開会を宣言した。今回の会議から、中桐委員の後任として倉敷市民生委員児童委員協議会の岡本様が委員に就任したため、委嘱状の交付を行い、岡本委員が自己紹介を行った。

中桐委員の辞任に伴う新役員（副会長）の選出について諮ったところ、岡本委員に依頼してはどうかという意見があり、委員の総意により決定した。

規約に基づき、会議の進行を植田会長に依頼した。

#### 2 議 事（発言者：◎会長 ○委員 ■事務局）

##### （1）令和4年度事業の中間報告について

■ 資料に従い説明を行った。

◎ しらかべ号に関しては、コロナ禍での代替事業として、過去の活動記録とボランティアのための車椅子介助マニュアルという、これまでの集大成となるような冊子を作成されている。まだ実物は無いが、もう少しで出来上がる段階と聞いている。委員の皆様からのご提案で、これまでの研修旅行に代わる事業に取り組みました。それまでは実質丸2年、何も活動ができなかったということか。

■ そのとおりである。令和2・3年度は中止したが、令和4年度に冊子を作成していただいた。

◎ 実行委員も医療従事者ということで、医療現場ではコロナの対応で忙しい中、時間を縫って取り組んでもらったと伺っている。夏のボランティア体験事業についても、今回は高齢者・児童関連施設などへメッセージカードを贈るというコンセプトで実施したが、オンライン環境を活用して、事前事後研修も YouTube で配信した。遠隔にあっても地域福祉の向上に繋がる活動ができたという報告があった。8・9ページには、実際の参加校や、メッセージが贈られた施設などの内訳が載っている。社会福祉協議会が準備したハガキの他にも、折り紙や寄せ書き、ポスターなど、参加者がそれぞれ工夫を凝らして心をこめて作られたのではないかと考えている。

○ コロナ禍で様々な行事が中止になって皆さん大変な中、工夫をしながら取り組んでいただきありがたい。ボランティアを育成するのは大切な事業だが、感染対策を施して非接触で実施するのは、大変な苦労があったのではないかと考えている。8ページの参加校を見ると多津美中学校は219人

が申し込みをしているが、ボランティアの育成に熱意を持って取り組んでいるなど何か特徴があるのか。

- 夏のボランティア体験事業を委託している社会福祉協議会からは、特にどこの学校がボランティア活動に力を入れているとは聞いてはいない。学校に対して案内は同じようにしていると聞いており、学校の中で幅広く学生への周知にご協力いただけたのではないかと考えている。
- 取り組みに対する学校としての意欲が感じられ、その呼びかけに応じる生徒も素晴らしいと思う。1人しか参加していないからこの学校はだめという意味ではない。倉敷市はボランティア活動が活発な市と聞いているため、子どもたちがボランティアに関心を持って、福祉に関わる経験ができるという機会は素晴らしいと思う。早くコロナが終息して、接触型のボランティアができるような日が来れば良いと思っているが、それまでもできる限りこのような機会を通じて、子どもたちのボランティア精神などを育てる機会に取り組んでもらいたい。
- ◎ なかなか接触が難しい中で、代わりになるようなものということで実施されている。本来の夏のボランティア体験事業の時には、夏休み前に学校で先生方がお知らせを配って周知していただいていると聞いている。課外授業などが難しい中で、みんなで取り組もうという組織もあつたら良い。

\*\*\*\*\*承認\*\*\*\*\*

(2) 令和5年度事業計画(案)について(ア 令和5年度倉敷市地域福祉基金事業計画案について)

- 資料に従い説明を行った。
- ◎ 委託事業のしらかべ号については、実施が難しいということで予算要求はない。夏のボランティア体験事業は、対面でのボランティアの再開を計画されている。助成事業については、例年どおり新規の団体と、継続の団体が計12団体で計画されている。日常生活用具給付事業は、コロナ禍でも例年程度の申請があると伺っている。
- しらかべ号は、今年度は冊子を発行するということがあった。組織は、活動があると繋がっていくが、ボランティアや有志で活動しているため、活動がなければ人の繋がりや集まりが途切れることもあると思う。再来年度も取り組んでほしい事業だが、再来年度に向けては、皆さんはどのような形で結束を繋げていこうとされているのか。
- 実行委員会会長は、実行委員に医療従事者が多いということもあり、現在はなかなか集まりに声をかけにくいと言っていた。しかし、これまでの参加者からの問い合わせもあることから、事業実施に向けて前向きに対応していただいている。来年度、事務局は実行委員会会長と緊密に連絡を取り、状況を聞きながら令和6年度の事業実施に向けた検討をサポートしていきたいと考えている。
- ◎ 事業が中止されてから丸3年ということで、これまで培ってきたノウハウや皆さんの結束が、事業を実施できないことで継承できるか心配している。今年度は冊子の作成ということで、研修事業とは異なる形ではあるが、皆さんと改めて連絡を取る機会や、これまでを振り返る機会になったのではないと思う。当事者の方にとっては、外に出かけて研修に参加するという機会を楽しみにしているためニーズが高く、また、ボランティアの方々にとっても、仕事とは違う形で当事者の方と触れ合いながら充実した時間を持つということで、大変意義のある活動だと考えている。事務局からあつたように、来年度は再来年度に向けた期間にして、事務局にもしっかりとサポートをお願いしたい。夏のボランティア体験事業は、対面での実施ということだが、受け入れ先の高齢者施設や障がい者施設では、ボランティアの受け入れは再開されているのか。
- 来年度の夏のボランティア体験事業の受入候補施設へは、4月に受入調査を行う予定と聞いている。

コロナ前の受入人数の確保が難しい場合などは、メッセージカードの送付も合わせて実施したいと聞いている。

- ◎ 対面でのボランティアとメッセージカードの送付を並行することも考えられるということか。
- そのとおりである。ボランティア受入施設の意向や、実際にボランティアに行く夏のコロナの感染状況によって検討していくとのことである。
- 委託事業の取り組みは実際の様子が分かりにくい。見に行く機会がなく難しいとは思いますが、もう少し委員が知ることができれば良いと思う。
- ◎ 年度初めは各助成団体の写真付きの報告があるが、委託事業はそのようなものがないため見えにくい。
- しらかべ号の冊子はまだ完成していないためここでの報告が難しいが、夏のボランティア体験事業については、作品の抜粋と事前事後研修の資料をもらっているので、回覧させていただく。
- ◎ 事前事後研修の動画は、視聴期間が終了しているためもう視聴できないが、委員会の中で一部を共有して、社会福祉協議会がどのようなことを地域の子どもたちに伝えているかや実際の活動の様子、振り返りの時の子どもたちの意見、実際に体験してどうだったかというフィードバックがあると、ここでの検討に使いやすいと思う。委員の皆様の様子を知っていただけるように、事務局と考えていきたい。ボランティア体験事業には長年どの市町村も取り組んでおり、倉敷市も1,000人以上の参加者がいるが、地域で初めてボランティア活動を始めるという時にも、このような子ども時代の体験が大きなきっかけになることもあると思う。また、3世代交流のような活動もあるので、地域の大人たちが立ち上げた活動の中に、夏のボランティア体験事業に参加した中高生が参加していくような形もあると思う。委託事業と助成事業で分かれているが、同じ市内での活動の応援という意味では繋がっていくのではないかと考えている。

\*\*\*\*\*承認\*\*\*\*\*

(2) 令和5年度事業計画(案)について(イ 令和5年度助成事業の募集計画について)

- 資料に従い説明を行った。
- ◎ 既に事務局に問い合わせはあるか。
- 現時点で3~4件程度の相談があった。令和5年度の申請に前向きな方が多い印象だったため、相談を受けた団体は申請するのではないかと考えている。
- ◎ 子ども食堂に取り組む新規団体が増えたが、他の市でも立ち上げたいという声があると聞いている。中学校区単位での活動が新たに立ち上がっているところもあるようなので、そういったところをサポートできるような形になれば良いと思う。

\*\*\*\*\*承認\*\*\*\*\*

### 3 閉 会

以上により、議事を終了